

旭山～大雪連峰と旭川の接点

ぷくぷく

発行元 (有)北海道新聞 下村販売所

旭川市東旭川北1条5丁目9番8号

ホームページ <http://www.doshin-pukupuku.com/>

お問い合わせ・お申込みは... フリーダイヤル ☎ 0120-233746



旭山シリーズ 81

H28. 2. 6

旭山の魅力・・・自然と人工の織りなす微妙な“間合”

「豊かな自然に恵まれた旭山」と言われてきたこの山も、その環境が分ってくるにしたがって、自然と人間が何処かで相通じているのではないかと思われる程、親密な関係にある山野草や小動物の姿を発見します。しかし、考えてみると人間も自然に生きる動物の一種であるなら、至極当然の事かもしれません。冬季間の今、今年の旭山を思い浮かべながらあれこれ推測して、出会うであろう山野草達を想像するのも、又、頭の体操になるのではないかと10年前の映像を掘り起こしながら並べてみました。

その魅力と癒しの空間、歴史を探る シリーズ 81



福寿草

旭山一の早起き山野草、パラポラアンテナを太陽一杯に広げて熱を集め、虫達を呼び込む知恵者、曇ると直ぐ閉じてしまう変わり身の早さ、感心させられます。



カタクリ

旭山の女王、カタクリの群落地です。人の手が加わった事でその生育地を拡大させています。絨毯を敷詰めたこのフィールドは訪れた人々の心を癒してくれる最高の場所でしょう。



ヒメギフチョウ

絶滅危惧種と云われるこの蝶、自然の豊かさを証明する生き証人です。何時までも生延びて欲しいと願う人々の心を察知してくれたのか、昨年は随分と優雅に舞う姿を見ることが出来ました。



オオバナノエンレイソウ

包装紙を広げた様なグリーンの上に、真っ白な花を咲かせる見事な配色、樹下に群生する爽やかさが、気品と清潔感に溢れています。旭山一の群落地は、お地蔵さん札所40番前後に延々と50mほど続きます。



ニリンソウ

谷間を埋め尽くすほど群生し、そのオフホワイト色で枯葉を覆いつくします。今は何と言っても「私のミドリニリンソウ」発見に精力を注いでいる訪問者が多数います。どれ一つとして同じものがないからです。



サンカヨウ

日陰の湿った斜面に数株自生している場所が、たった一ヶ所だけ神秘の森の樹下に潜んでいます。白雪姫と小人達の言葉通り、大きな葉の上で真っ白な帽子をかぶった小人達が踊り跳ねる姿を彷彿とさせる美しい花です。



ヒトリシズカ

光沢のある4枚の葉、その先に静かに咲く花の立ち姿は、静御前の舞い姿なのでしょう。そんな想いに浸っている時、「アッこれ僕の歯ブラシと同じだ」と子供の声が聞こえそうです。



フデリンドウ

極小の花でも所狭しとばかり、パープル色を辺り一面に発色しています。よくよく見ると間違いなくリンドウの仲間です。どんなに小さくても、生きる権利は同じですと言いたげに、懸命に花を咲かせています。



ハクウンボク

初夏の風に吹かれて、雲のように花開くハクウンボク、巡礼の路が白く染まって初めて気が付き見上げると、鈴なりに連なったこの花の存在に気が付きます。道北では目にしない木で、どうして旭山に育っているのか。今年は花盛りになりそうです。



コウライテンナンショウ

この花に出会った人は、この奇妙な作りに思わず「これ花・・・？」と驚いてしまいます。そして、茎を見てヘビの皮そっくりの配色に後退りします。



オオウバユリ

旭山の主と言ってもいい山野草で、展望台近辺に群れをなして生育しています。ユリ科なのですが、花の色が黄色みを帯びた緑で、あまり目立った立ち姿をしていないため、素通りされてしまう山野草ですが、実が熟した殻は、華道で利用されます。



キウルシ

側によったり触ったりするとかぶれる人がいるので、十分注意をしなければならない山野草です。しかし、秋の巡礼の路を七色に飾るこの紅葉は、見事なものです。放射状に伸びた葉が霜によって変身をしていきます。



ツルマサキ

地味な花に比べて、この種の変わりようは「お見事！」と云うしかありません。ツートンカラーの色合いは、冬に向かうグレー色の旭山に、プレゼントをしてくれたお礼なのかもしれません

心躍らせながら一年の草花達を映像で眺めていると、一年として同じ容姿を見せる事はありません。だからワクワクするのでしょうか。今年も又、新しい出会いがあることを楽しみに、春から秋までの時を、花で綴ってみました。